



道東・国語 実施報告

令和5年12月5日（火）、北海道帯広農業高等学校を会場に「国語科における探究的な学び（主体的・対話的で深い学びの充実）」をテーマとして道東・国語の授業研究セミナーを開催しました。道東ブロックの各管内から20名の参加がありました。

本講座の実施内容等を紹介しますので、授業改善の参考として御活用いただければと思います。

実施状況

【研究授業】北海道帯広農業高等学校 中林 亮 教諭

2学年「言語文化」の「書くこと」の領域において、「学校生活における身近な『実体の美と状況の美』～私の感じる「美」を随筆で表現しよう～」という単元名で、「自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができる」ことを単元の目標に設定し、研究授業を行いました。



主な言語活動として、「帯広農業高校内で見つけた『美』をテーマにフォトエッセイを書く」というテーマで創作したエッセイを相互評価しました。生徒は、グループに分かれて各自のICT端末からスクリーンに写真を表示させ、作成したフォトエッセイを読み合った後、創作の背景等を発表し合い、各作品の面白さや題材選びの適切さなどを話し合いました。作品に真剣に向き合い、友人同士で交流する姿が見られました。

[学習指導案リンク](#) QRコード



【学習指導案検討会】

本セミナー研究授業の実施に向け、授業者1名、協力員3名（道立高校教諭）、道教委指導主事3名、国立大学法人東京学芸大学教授、独立行政法人教職員支援機構次世代型教職員研修開発センター研修開発課研修広報・情報係長／研修プロデューサーから成る「授業研究チーム」を編制しました。オンライン学習指導案検討会を3回（8/28、10/18、11/13）実施し、授業案をもとに、授業者の思いを形にするために協議を重ねました。

〈検討会で出された意見（例）〉

- ・生徒に身に付けさせたい資質・能力から考えて、学習指導要領「書くこと」の内容から、適切に目標を設定し、評価規準を決めるとよい。



【研究協議】『言語文化』における『書くこと』の指導と評価について

研究授業実施後に、「『言語文化』における『書くこと』の指導と評価について」を柱に研究協議を行いました。



(1) 授業者・協力員より

- 「言語文化」における2つの内容の違いを理解した上で、生徒に身に付けさせたい資質・能力を意識して目標設定した。また、その目標に向けて適切に評価できるよう、評価規準を設定し、ワークシートの記入項目や言語活動の手順についても試行錯誤した。
- 授業者が思い描く本校生徒像と身に付けさせたい資質・能力を、取り組ませたい言語活動に落とし込むため、学習指導要領に照らし、授業案がよりよいものになるよう検討した。

(2) 参加者より

- 「言語文化」における書くことの内容を指導するうえでヒントが見つかった。
- ICT活用事例を見たが、使いこなせるとここまでできるのだと参考になった。
- 科目の目標を再確認できた。

[助言資料リンク](#) QRコード



(3) 助言

資質・能力を意識して、「言語文化」における「書くこと」の授業に臨んだことは、画期的であった。単元の目標と、評価規準、評価方法となるワークシートの項目を呼応させて焦点化することで、生徒もよりゴールを明確にして言語活動に取り組むことができる。

セミナー参加者の声

【参加者の声】

- 「書くこと」の授業では、構成や表現を指導したくなりますが、まず素材のよさを吟味して明確にすることが大事だと思いました。
- 他者の見方を知ることで考え方のプロセスを学ぶことができていた。
- 自分の言葉で表現するために、自己評価、相互評価を繰り返し、次回以降の学習へつなげるPDCAサイクルがある（自らの学習の調整）。
- 農業高校なので校内の活動が実社会や実生活につながるものが多く、生徒にとって今回の授業は自らの活動を振り返る機会となっていた。この授業後に、他の場面での探究的な学びにもつながると思う。

【アンケートの結果（一部）】

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1 今回の実践発表・研究授業・研究協議において、教科における「探究的な学び」又は「主体的・対話的で深い学びの充実」に関する理解は深まりましたか。 | 2 今回のセミナーは、あなたの今後の授業改善に役立ちますか。 |
| ・大いに深まった 63.6% | ・大いに役立つ 36.4% |
| ・深まった 36.4% | ・役立つ 63.6% |